

北医療薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会

☎ (0133) 23-0301 直通・FAX

☎ (0133) 23-1211 大学代表

発行人 田中稔泰

印刷所 (株)コルパス

札幌市中央区大通西15丁目3-5

☎ (011) 640-6803



当別キャンパス中央講義棟および10F展望室から札幌方面を望む

目 次

巻頭挨拶 同窓会副会長 遠藤 泰	3
第34回 北医療薬 総会および医療薬学セミナーについて	4
定年退職される先生からのメッセージ 薬理学講座・病態生理学 富樫 廣子教授	5
支部だより オホーツク支部 17期 谷口 寿康さん 薬品分析化学教室(現 生命物理科学講座・薬品分析化学)	6
卒業生からの近況報告 第19期 薬理学教室(現 薬理学講座・薬理学) 菊池 和彦さん	7
在学生からのメッセージ 元SCP(学生副学長) 森 数馬さん	8
2014年度オープンキャンパスのご案内	9
第6期生卒業30周年記念祝賀会 田尾 好正さん	10
新入生オリエンテーションへの同窓会参加	11
お知らせ(北医療薬 総会ならびに懇親会のお知らせのご案内)	12
編集後記	12

巻頭挨拶

6年制3回目の薬剤師国家試験をおえて

北海道医療大学薬学部同窓会副会長

遠藤 泰

(北海道医療大学薬学部教授)



本年度より薬学部の教務部副部長を仰せつかりました。この度会報に巻頭挨拶文を書く機会を与えて頂きましたので、薬学6年制がスタートして過去3回行われた薬剤師国家試験の変遷から今回の第99回薬剤師国家試験について述べたいと思います。

薬学6年制第一期生は2012年(平成24年)3月に卒業し第97回の薬剤師国家試験を受験いたしました。表1に示すように第97回の国家試験合格率は非常に高く全国平均が88.3%でありました。新卒では全国平均がなんと95.3%と非常に高く、本学も全国平均を若干上回る95.9%の合格率でした。2年目の2013年(平成25年)に行われた第98回国家試験では79.1%と合格率が前年より10%近く下がりました。全国新卒でも83.6%で、本学新卒も全国平均は上まわっているものの88.7%と前年より8%近く下がりました。そしてこの3月に行われた第99回国家試験では、全国平均が60.8%とさらに前年より10%近くさがり新卒でも70.5%でした。本学新卒は全国新卒の合格率を上回りましたが、それでも前年より10%以上下がりが77.2%という結果でした。国家試験の合格率が低いと様々なところへ影響を及ぼし、最も重大なこととしては就職が内定していた学生が国家試験に不合格だったため就職できなかつた事です。大学としては多くの施設にご迷惑をおかけしました。内定の決まった就職先には同窓生の施設も多く含まれていたことと思います。ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。薬剤師が充足されないことは最終的には患者さんが受ける薬物療法に影響が及ぶこと、すなわち

社会に迷惑をかけることとなります。

ここで薬剤師国家試験について少し述べたいと思います。ご存じの方も多いと思いますが薬剤師国家試験の出題問題も大きく変わり現在の問題数は345問です。さらに表2に示すように出題される科目も細分化され、まず大きく必須問題と一般問題に分かれます。さらに一般問題は理論問題と実践問題にわかれます。実践問題は実務系との複合問題として出題されます。また国家試験の合格基準も複雑になり、全問題(345問)への配点の65%以上が基本ですが、一般問題と必須問題にもそれぞれ合格基準が設けられています。一般問題は各科目で35%以上ないと合格基準を満たさず不合格が決定します。また必須問題は、全必須問題(90問)への配点の70%以上であり、かつ各科目の得点が50%以上ないと合格基準を満たしていないこととなります。このように240問出題されていた旧国家試験(私が受けた頃は150問でしたが)と比較しても厳しい合格基準になっていることがご理解できると思います。また国家試験への過去問題の出題に関しては20%程度出題されていると言われていますが、新国家試験での詳細はわかりません。

さてこの度の第99回国家試験の合格率について考察します。今回の国家試験では従来の暗記型の問題から思考能力や応用力が必要になる問題が増えているようです。しかしながら国家試験に出題される問題は、薬学部や薬科大学の教員や大学病院の薬剤部長など現場の薬剤師が出題員でありますし、基本的に大学での講義、演習ならびに実習で行ったことが出題

表1. 過去3年間の薬剤師国家試験問題の合格率(全国平均と本学新卒平均)

	施行年・月	全国平均*1	全国新卒平均	本学新卒平均
第97回	2012.3	88.3%	95.3%	95.9
第98回	2013.3	79.1%	83.6%	88.7
第99回	2014.3	60.8%	70.5%	77.2

*1 全国平均は新卒者と既卒者の合計

範囲ということになります。講義形式が中心だった大学での教育も、少しずつPBL、すなわち問題解決能力を意識した教育としてワークショップを行い、討論し意見をまとめ発表するというような学習方法も導入されてきています。また現場の薬剤師も薬学実務実習というかたちで5学年の学生教育に関与して頂いています。国家試験の実務の問題では現場の実習で体験したことが実際の問題として出題されていたり、問題解

決のヒントとなっていることが多々あります。このようにこれからは大学、現場の薬剤師そして学生が一体となって薬学6年制の新しい薬剤師を世の中へおくり、そして育てていかなければならないと考えます。最後になりましたが今後とも薬学生への教育に際して、同窓生皆さまの益々のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

表2. 新薬剤師国家試験の科目、問題区分、出題数

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
理科・科学・生物	15問	45問	30問	15問(複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問(複合問題)	40問
薬理	15問	25問	15問	10問(複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問(複合問題)	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問(複合問題)	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問(複合問題)	30問
実務	10問	85問	—	20問+65問(複合問題)	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

第34回 北医療薬 総会および医療薬学セミナーについて

平成25年6月29日(土)に北医療薬 総会および医療薬学セミナーが開催されました。医療薬学セミナーには講師として本学薬学部長 和田啓爾 先生(衛生薬学講座・衛生化学教授)に「小児に散発する银杏中毒について～基礎と臨床の連携～」と題し、御講演を頂きました。和田先生は、银杏に含まれる中毒の原因となる物質を発見され、中毒発生のメカニズムの解明や分析法の開



発など幅広く研究をされています。このような先生の長年の研究成果をわかりやすく御講演され、参加者一同、感銘を受けました。また、質疑応答も活発に行われ、和やかながら大変勉強になる時間となりました。

講演終了後は、懇親会が開催され、和田先生にもご出席頂きました。同窓生の近況や、今後の医療や薬剤師について、また北海道医療大学の進むべき道などの意見交換が活発になされ、大変盛況かつ和やかな会となりました。



定年退職される先生からのメッセージ

「気分は一期生」

薬理学講座・病態生理学 富 樫 廣 子 教授

この春、北海道大学医学研究科から赴任して9年に亘る北海道医療大学薬学部での任務を終えた。井出肇教授から引き継いだ薬学部で一番新しい教室であった。研究室の立ち上げに要した2年余は、大学院生を巻き込み大工道具片手に実験室を改造しながらの日々であった。老朽化した水道の蛇口が壊れ、私と研究室の床や壁が水浸しになり、大騒ぎになったことも今では懐かしい。大学院希望者には、薬ではない研究に取り組む覚悟を問うた。実際、それで翻意をした学生もいたが、多くは脳の発達障害をテーマとする私の研究に興味を示してくれた。毎週土曜日の抄読会、研究報告会に加え、モデル動物の交配・出産から関わるというタフな実験、学生は本当によくやってくれた。今でも私の自慢の学生達である。本学に来て感じたことは、学生たちの持つ伸び代（潜在能力）である。私の仕事はやる気を引き出し、世界と競争するような研究をしているという自信を持たせることにあった。一番のハードルは、控えめで(?)やさしい学生が多いことであった。それを前に進める（その気にさせる）ことに大きなエネルギーを費やした。厳しい質問を受けたら喜べど。全国学会や国際学会後の学生たちの顔つきが違って見えたのは、教育者冥利という大げさかもしれないが、何より嬉しいものだった。

北海道大学薬学部卒業後、民間の化合物安全性研究所に勤務し、7年間非臨床試験に従事した。北海道大学医学部薬理学教室の教授であった田辺恒義先生が創設され株式会社となったばかりの研究所で、受託する仕事すべてが勉強であった。何もない中、実験技術や装置などを工夫することの大切さ、楽しさを経験した研究所時代は、20代だった私の大きな財産となった。出身大学の有難さを実感したのもこの時である。わからないことがあると、仕事が終わってから教えを請うたために北海道大学薬学部薬効学教室の宇井教授のもとを訪れた。北海道大学医学部での27年間



の勤務を経て本学に赴任することになった時、真っ先に思い出したのがその時の心風景である。卒業生にとって、寄り添える実家の様な存在でありたい、頼りになる大学(人)でいたいと強く思い続けてきた。

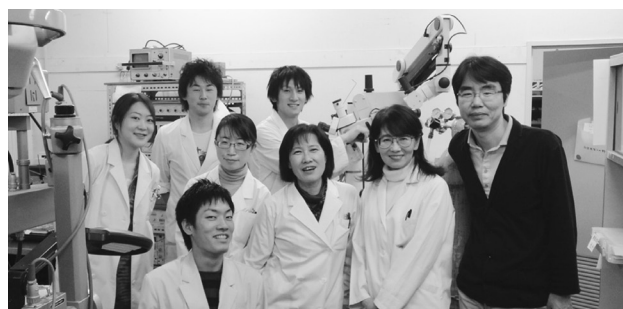
北海道医療大学との関わりは、薬学部1期生がまだ音別で教養時代を過ごしていた頃、東日本学園大学時代に遡る。北海道大学医学部に助手として移ってからも、本学薬理学講座の初代教授となられた田辺教授、その後を継がれた南勝教授の教室から多くの学生さんが実験を手伝いに来てくれた。最初の大学院生だった遠藤泰先生（4期：本学薬学部病院薬学講座教授）をはじめとし、浜上尚也先生（9期：本学薬学部生命薬学講座・生化学准教授）、木村真一先生（15期：本学薬学部薬学教育支援室准教授）、根本昌宏先生（15期：日本赤十字北海道看護大学看護薬理学領域准教授）、根津顕弘先生（16期：本学歯学部口腔生物学系 薬理学講師）他、一緒に研究した多くの仲間が学内外で活躍している。そんな姿をみるのは嬉しい限りであり、自分が“退任する年頃”になったのだと実感する。

北海道医療大学薬学部で学生たちと過ごした時間は、楽しく充実したものであった。大学人としての“卒業”を本学で迎えることができたことは幸せであった。

北海道医療大学のこれからの期待している。大学力を信じている。

9年間という短い期間ではあったが、気分は一期生である。

薬理学講座 病態生理学 富 樫 廣 子
(原稿受領；2014年3月30日)



■■■■■■■■■■ 支部だより(オホーツク支部) ■■■■■■■■■■

オホーツク支部 17期 谷口 寿 康

薬品分析化学教室 (現 生命物理科学講座・薬品分析化学)

オホーツク支部は文字通りオホーツク海に面した地域で北見、網走、紋別、遠軽地区の先生方67名で構成しております。

今回は新井支部長よりご指名があり谷口(第17期薬品分析教室)が担当させていただきます。

本稿では、2013年度オホーツク支部で開催されました『オホーツク支部医療薬学セミナー』および私の経営する薬局の現状について紹介させていただきます。

2013年度オホーツク支部医療薬学セミナー

平成25年11月3日(日)北見市ホテル黒部において、北医療大薬学部同窓会オホーツク支部総会及び医療薬学セミナーが開催されました。セミナーの講師として本学薬理学教室ご出身の日本赤十字北海道看護大学 准教授 根本昌宏先生を招き、「災害薬学を考える～北海道の災害を踏まえて～」と題して、御講演を頂きました。

講演では災害医療薬学が古くて新しい学問であり、災害時の医療チームに薬剤師が薬事コーディネーターとして参加することの必要性を東日本大震災時の事例をもとにご説明頂きました。被災地においては全国から大量に届けられる支援物資における医薬品は供給量と必要量にミスマッチがあり、迅速な仕分け作業や管理、運用には薬剤師の活動が不可欠であり、急性期を脱した避難所生活者に必要な薬剤が確実に行き渡るように支援することが薬剤師の重要な役割に



なるとことを教えて頂きました。

また北海道における災害についても、昨年3月に北海道を襲った暴風雪による大規模停電を例に、停電時における薬局の自立化に向け必要な設備について実例を挙げ御説明頂きました。この時の暴風雪では、私の住んでいる隣町、湧別町において、暴風雪で車が立ち往生し避難途中で隣家にたどり着けず、父親が娘さんを命がけで守り亡くなるという痛ましい事故があり、全国ニュースにもなり皆様の記憶にも新しいことと思います。

セミナー終了後は恒例の懇親会が開催され、講師の根本先生、大野先生、吉村先生にもご出席いただきました。本学事務局次長鈴木様より本学の現状、将来像について紹介があり、同窓生からは在学当時との変遷に驚愕の声があがり、和やかな会の話題となりました。

当社株式会社イチマルの現状について

当社は旧丸瀬布町にあり平成17年4町村合併で遠軽町になりました。現在遠軽町の人口は約22,000人で丸瀬布地区は1,600人と大変人口の少ない地区であります。林業の町であった丸瀬布町は近年観光に力を入れ、かつて木材を運搬していた蒸気機関車 SL 雨宮号(北海道遺産に登録)を動態保存した公園、いこいの森を整備し現在では道内屈指のキャンプ場として地域人口の10倍以上の来客数をみております。また公園近郊にありますマウレ山荘も人気があり、道内はもとより道外からのリピータも丸瀬布を訪れております。

当社株式会社イチマルは丸瀬布駅周辺の商店街にあり、3代目の祖父が薬種商として始め父と経営していた薬店に私が薬剤師になり戻ってきました。祖父の後私が管理者になり一般販売業として父と経営しておりましたが、登録販売者制度に伴い一般販売業が廃止になりやむなく薬局に致しました。現在薬局となりま

したが、ここは小さな地域の商店でありますので、当社は従来取扱品目が多く、薬品、化粧品、介護用品等のほかに、事務用品、OA 機器、DPE、スポーツ用品、たばこ、携帯電話などや、集合写真の撮影や蜂の駆除、遠軽町の指定ごみ袋の納入も行っております。本学出身の薬剤師としては異端児だと自負しております。

また小さな地域でもあり、沢山の会に入れて頂き、商工青年部では「STV どさんこワイド」や「STV ラジオ日高晤郎ショー」に出演し6月に開催される丸瀬布「藤まつり」をPRしたり、雪中屋台の開催など、ほかに消防団活動、スポーツ推進委員では小学生とスポーツをしたりなど、お陰様で忙しい毎日をごしております。

そんな自分を見てくれているのか、この春中学校を卒業した長男は中学3年生の修学旅行の職場見学で、同級生はいろいろな職場を見学に行くなか、本学医療

大学（職場ではないのですが）を見学に行き和田教授に案内して頂いたようで、目を輝かせて自分は医療大学に入って薬剤師になると自分の将来像を思い描いている様です。

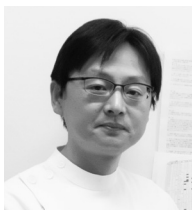
つたない文章で申し訳ありませんが私の近況報告とさせていただきます。



卒業生からの近況報告

第19期 薬理学教室（現 薬理学講座・薬理学） 菊池和彦さん

私は現在、独立行政法人国立病院機構北海道がんセンターに勤務しております。国立病院機構では、厚生労働省本省や医薬品医療機器総合機構（PMDA）等へ出向するシステムがあります。私は当時の国立札幌病院（現在の北海道がんセンター）に勤務し、その後、東京の厚生労働省本省にて2年間、その後、医薬品医療機器総合機構（Pharmaceuticals and Medical Devices Agency: PMDA）にて3年間仕事をすることができましたので報告させていただきます。私は幸運にも病院で働く薬剤師に直接的に関連のある部署を複数経験することができ、現在の業務に大変役立っていると考えております。



厚生労働省では薬価算定、薬価、診療報酬、調剤報酬の改定等を所管する保険局の医療課へ配属となりました。業務として例えば、薬価算定に携わりました。薬価算定は薬価を決めていく過程ですが、その算定ルールは「薬価算定の基準について」の厚生労働省保険局長通知で示されているところです。実際には薬価

算定のルールに則り製薬企業からの申請資料について適切に取り扱いをいたしました。その際には、それまでの医療機関での経験が活かされ、実際の医薬品の使われ方に沿った類似薬の設定や、製薬企業への照会事項として明らかな等、適切な薬価算定に活かされたものと確信いたしております。また、現在2年に1度実施されている薬価、診療報酬、調剤報酬等の改定は、中医協を中心として議論が進められていきます。1万品目以上の薬価について薬価調査等に基づいて決定されていきますが、作業は膨大であり、特に議論が佳境を迎える頃には深夜までの作業となったことが、今では良い思い出となっております。

診療報酬、調剤報酬の改定については薬剤師会の方々等の意見をいただきながら、また、中医協での議論を踏まえつつ、改定がなされていくことを目の当たりにし、薬価、診療報酬、調剤報酬の改定に携わることができたことは、貴重な経験ができた実感しています。

PMDA では安全部に配属となりました。製薬企業や医療機関等から薬事法に基づき報告された副作用情

報等の安全性情報を日々チェックし、必要に応じて製薬企業に照会し、医薬品添付文書の改訂の必要性を検討しておりました。また、日常業務として製薬企業のファーマコビジランス（医薬品安全性監視）部門の方々と面会を行い、副作用の集積状況、CCDSの記載状況等に基づき添付文書改訂について助言等をしてまいります。一方、時には緊急安全性情報が発出される際には、製薬企業との面会や文言の調整のやり取りを迅速に対応いたしました。医薬品の添付文書の作成から改訂について携わることができ貴重な経験となりました。

ました。

以上、国立病院機構では病院から本省等への出向が行われており、病院での経験を活かして活躍することが可能ですし、そこでは本省等採用のキャリア官僚、いわゆる100%行政職の薬剤師と医療機関等の現場で経験のある薬剤師の両方の知識や経験が必要な職場であると実感いたしました。

独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
治験管理室 菊池 和彦

■■■■■■■■■■ 在学生からのメッセージ ■■■■■■■■■■

元SCP (学生副学長) 第6学年 森 数馬さん

薬学部第38期生の森数馬です。このたび在学生を代表し、ご挨拶させていただきたいと思います。

私は本学が平成20年より導入したSCP(学生キャンパス副学長)制度の第3期を務めさせていただきました。本制度は大学構成員の大多数である学生の大学運営への参画を促し、学生と教職員の協力のもと、より良い大学づくりを目指す取り組みです。各学部より1名学生が選出され、様々な活動に携わります。具体的には大学の食堂や売店の利用改善を大学に提案したり、札幌薬剤師会主催の薬物乱用啓発イベントなど、学外のイベントにも参加します。活動を通じ、経験を積むことで学生自身の成長も目指しています。私も任期中、東日本大震災で被災された方々のために募金活動や書籍のチャリティーバザーを企画・運営するなど、本制度を通じて様々な経験をさせていただきました。現在は第6期のSCPメンバーが活動中で、第6期

より新たにリハビリテーション科学部が新設されたことでメンバーも増え、より活動の幅が広がっていただきたいと思います。活動内容はSCP用のHP(<http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>)より随時お伝えしておりますので、ご興味のある方はぜひ一度ご覧になってください。

この原稿が皆様の元へ届くころには、私も最上級生になっており、卒業研究のまとめや就職活動、卒業試験や国家試験のための勉強など忙しい日々を送っているかと思います。とくに私たちは記念すべき薬剤師国家試験第100回の受験生となり、年々難易度が上がっているように感じる国家試験ですが、切磋琢磨しあえる仲間たちとともに乗り越えていきたいと思いません。

同窓会につきましては、私たち第38期生は比較的道外出身者が多く全体の1割強の学生が該当します。実は私も関東出身です。卒業後、自分たちの若い力を北海道を中心に全国各地で活かし、先輩方のご指導の元、北海道医療大学薬学部の同窓会がより発展していけるよう貢献できたら幸いかと存じます。

最後になりますが、北海道医療大学薬学部の同窓会がますます繁栄することを願ひまして、在学生代表としての挨拶を終わらせていただきたいと思います。

薬学部第38期生 森 数馬
(原稿受領；2014年3月17日)



ゼミの仲間とともに(筆者・左前)

~~~~~ 2014年度オープンキャンパス ~~~~~



今年度も北海道医療大学オープンキャンパスが開催されます。

開催日

- ① 6月15日(日)
- ② 8月1日(金)
- ③ 8月2日(土)
- ④ 9月21日(日)

※いずれの日程も11:00～16:00まで

内 容

- 大学概要説明 2014年度入試結果及び2015年度入試概要について説明を行います。
- 学内施設見学 興味のある学部・学科に分かれて施設見学を行います。
- 体験実習
または模擬講義 興味のある学部・学科に分かれて行います。
- 保護者ガイダンス
- 個別進学相談

※ランチ付き

オープンキャンパスに関するお問い合わせは入試広報課まで

E-mail: nyushi@hoku-iryō-u.ac.jp

■■■■■■■■■■ 第6期生卒業30周年記念祝賀会 ■■■■■■■■■■

北海道医療大学薬学部6期生同窓会 卒後30周年会を終えて

薬学部 6期 幹事代表 田尾 好 正

昨年7月14日(日)京王プラザホテル札幌で、盛会の中6期生71名の卒業30周年記念祝賀会を終えることが出来ました。バトンを預けてくれた5期生に感謝申し上げます。

祝賀会の1年前になりますが、地主君が5期生の方からご祝儀袋を渡されたところから準備が始まりました。地主君には、開催日とホテルの会場を4時間おさしてもらい、吉井さんは大学に連絡を取り最新の名簿を取り寄せ、鈴木ゆかりさんと一緒に住所が判らない人達の確認作業をして頂きました。寺口君は、飲むだけでは盛り上がりがないからと言ってスライドショーを作成してくれました。リフォームのTV番組で知られるビフォー&アフターの軽やかなバックミュージックの中で大学の建物・風景の移り変わりだけでなく、参加した多くの人の30年前と現在の映像が出てきて大きな笑いと絶大な響響(ひんしゅく)を彼は手に入れることが出来ました。

嶋君はどうせ集まるならゴルフしようというゴルフの企画を立て、15名の同期会コンペをしました。祝賀会ではゴルフの話題も盛り上がりに花を添えました。

祝賀会が始まる前の受付の風景ですが、初めは静かでどこかよそよそしい雰囲気でした。何処からともなく、小さな声で「だれ?あのひと?」とか「〇〇さんかな~?いや違うかな~?」などと、まるで自分だけ

が30年前から飛び越えて来たかのような声が聞こえて来ましたが、宴会が始まり30分もしないうちに、みんなが30年前の姿に戻っておりました。音別で1年間過ごした『同じ釜の飯』の私たちの話は尽きることはなく、あっという間の4時間でした。

71名という多くの人が集まって頂いて本当に有難うございました。東日本大震災で被害を受け大変な思いをした東北の友人、遠く四国・沖縄から駆けつけてくれたたくさんの友人、全国から集まった友人、そして色々な事情で参加出来なかった友人に、30周年祝賀会が無事に終わった事の報告をお伝えすると共に、一年間の準備をしてくれた幹事方にも心よりお礼申し上げます。

祝賀会が終わった後も、6期生のメーリングリストには「元気をもらった」とか「とても楽しかった」など多くのメッセージが入っておりました。現在、6期生のメーリングリストには49名が参加しております。祝賀会の写真などメーリングの中に入っております。ぜひ、登録して同期の情報交換や張り付いている写真を見てください。登録は私にメールを下さい。(メールアドレス:kenkou@coral.ocn.ne.jp)宜しくお願いします。

そして祝賀会が無事終わり、ご祝儀袋は中身を開けずにバトンとして間違いなく7期生に渡したことをご報告致します。





≡≡≡≡ 新入生オリエンテーションへの同窓会参加 ≡≡≡≡

新入生 176 名を対象とした宿泊オリエンテーションが4月10日・11日に定山溪ビューホテルで開催されました。田中稔泰 同窓会会長および本学の同窓会関係教員 5 名も参加し、「同窓会提供イベント」として講演会およびクイズ大会を実施しました。講演会

では、本学第11期卒業生の板木祐介氏（株式会社メディアール 代表取締役）に「楽しくなければ続かない！」との題でご講演を頂きました。続いて行われたクラス対抗のクイズ大会も大いに盛り上がり、新入生同士の交流も深まったように感じました。



第35回 北医療薬 総会および懇親会のご案内

(医療薬学セミナーのご案内)

第35回 北医療薬 総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。総会は同窓会発展のために皆様からのご意見を頂戴し、活動方針について審議いただく貴重な機会です。多くの皆様にご参加いただき、ご意見を賜りながら、親睦を深めていただきたく思います。是非、お誘い合わせのうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

総会終了後、北海道医療大学 薬学部 大倉 一枝 教授を講師に迎え医療薬学セミナー(札幌支部主催)を開催いたします。

記

日 時：平成26年7月20日(日)

- ・北医療薬 総会：17時00分
- ・札幌支部 総会：17時45分
- ・医療薬学セミナー：18時00分

「薬剤師と放射線・放射性医薬品とのかかわり」

北海道医療大学 薬学部 大倉 一枝 教授

懇 親 会：19時30分(セミナー終了後)

*セミナーは、札幌支部主催ですが、どなたでもご参加いただけます。

*セミナーは、北海道医療大学薬剤師支援センター認定研修(1単位)です。

会 場：ホテルKKR札幌

札幌市中央区北4条西5丁目 TEL(011)231-6711

懇 親 会 費：3,000円(当日申し受けます)

*出欠席のお返事は同封の返信用ハガキまたは、同窓会ホームページ(北海道医療大学→薬学部→同窓会)で7月10日までにお知らせください。

ハガキでのご返信の場合は、委任状への署名も合わせてお願いいたします。

同窓会ホームページ：<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>



同窓会会報の編集に携わって数年、最近は少しマンネリ気味かと思い、斬新なアイデアをと思いつつも気がつけばさしていつもと変わらぬ内容。変わったと言えば、年々失われてゆく私の体力と薄くなった頭の・・・？ 本学はもうじき開学から40年を迎えます。卒業生の方々には今後も本学および同窓会に変わらぬご支援をいただきたいものです。

(S.K.)